

# 津田左右吉物語

## 第20回

左右吉をとりまく人々

(恩師と愛弟子<sup>まな</sup>)

左右吉がいつも「先生」と呼んで尊敬していた人が2人います。その中の1人が、文明小学校時代の大教師（現在の校長）森達先生<sup>もりたけし</sup>です。入学してから卒業するまで、左右吉は森先生から7年の間親しく教えを受けました。放課後を余課として特別指導を受けたことは、左右吉の少年期の原体験として強く脳裏に刻みこまれていたようです。

上京（明治23年）後も、帰省のときにはいつも森先生を訪問。自分の著作が刊行されたとき、最初に送るのは森先生のところ。これは、先生が亡くなるまで変わりませんでした。



左右吉の旧制中学での授業は、森先生そっくりでした。独協中学で教えた昭和女子大学の森於菟<sup>おと</sup>名誉教授（森鷗外の長男）の回想記

にも、そのことが書かれています。早稲田大学の栗田直躬<sup>なおみ</sup>名誉教授（左右吉の愛弟子）が、同じことを下米田小学校にある胸像の除幕式のときに語っていたことを思うと、いかに森先生の影響が大きかったかがわかります。

▶早稲田大学教授時代の左右吉（大正10年に撮影）

